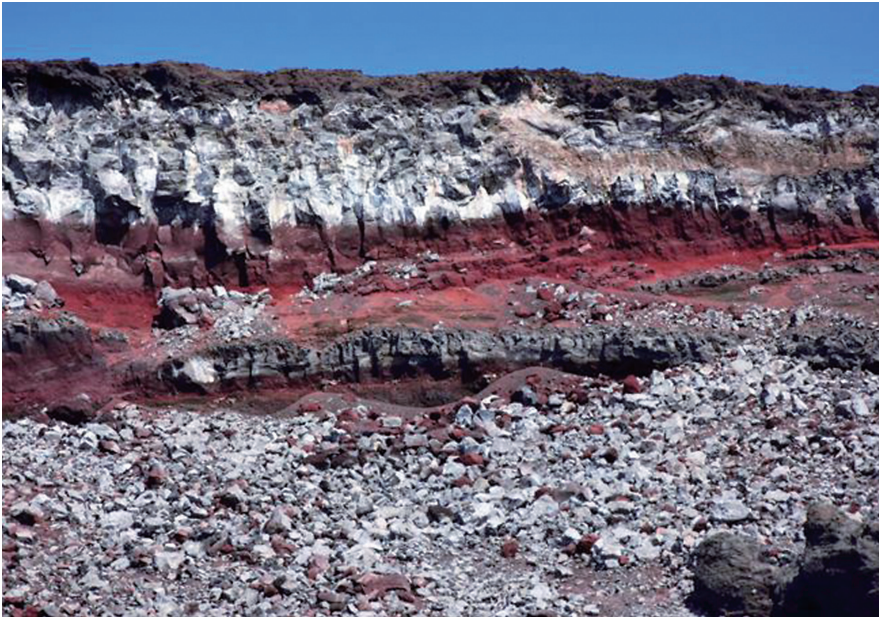


E025 宝永第一火口壁のアグルチネート（静岡県GEO DATA (20) : 地学散歩 (99))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 相原, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027676

E025 宝永第一火口壁のアグルチネート



写真は望遠レンズ（400mm）を使って撮影した井上 勝氏からの提供.

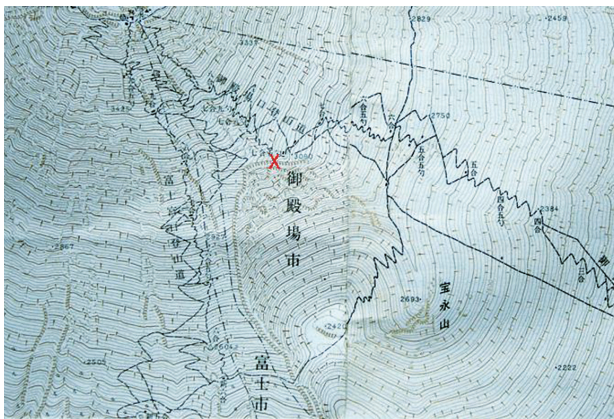
約 2,200 年前の富士山頂噴火は、規模が大きく、降下テフラが広く分布する（Yu-2 湯船第 2 スコリア）。このテフラは山頂火口からの最新の噴出物である。その後、テフラや溶岩を噴出する富士山の噴火は側火山で起きている（町田, 1996）。

この噴火で、宝永火口付近から富士

山山頂までの斜面は、山頂火口に近いので、飛ばされたスパッターが降下しても高温で柔らかく、互にくっつきあって固まり、急勾配になっている（中田, 1997）。このようなスパッターが次々と重なって溶結した堆積物はアグルチネートと呼んでいる。富士山の山腹斜面の曲線美は、アグルチネートによる急勾配と崩壊の跡を埋めたことによると考えられる。

アグルチネートの下部は、高温が保たれ、含まれる鉄分が酸化し、赤鉄鉱ができ、赤褐色をしている。また、下部に柱状節理が見られることから、一度溶けて固まったと考えられる。この第一火口壁のアグルチネートは、崩れやすく、大きな音と砂煙をあげて崩れるのを著者は何回も目撃した。写真は 2016 年 10 月に発生した崩壊のあとである。

（相原 淳）



国土地理院 1 : 25,000 富士山, 須走

引用文献

町田 洋 (1996) : 第 4 章 富士山の新期の活動と小山. 小山町史編さん専門委員会編, 小山町史 第六巻 原始古代中世通史, 93-136, 小山町.

中田節也 (1997) : 6 火山噴出物と噴火の推移予測. 兼岡一郎・井田喜明編, 火山とマグマ, 158-178, 東京大学出版会.